

ミステリ読書案内

2025. 1. 8 発行元

第627号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

1994年のミステリ

「1988年のミステリ」からスタートして、今回はその7回目。平成6年である「1994年のミステリ」を取りあげる。例年の通り『このミス』ランキングを見ると傑作・名作がずらりと並んでいる。

読書中断期間4年目

1994年。私は忙しい時期が続く、ミステリの読書を一切止めてしまった年。中断期間に入って4年目ということになる。右表に『このミス』年間ランキングのベスト20を示してみたが、いずれも1999年以降になってから何冊か読んだ。今もって未読になっている作品も多い。既読・未読は半々か。

山口雅也の『ミステリーズ』は以前「代表作」の号で紹介した。佐々木譲の『ストックホルムの密使』も

以前取り上げた。花村萬月、浅田次郎、白川道、篠田節子、谷甲州などは私が手を出さない作家なので未読のままである。今後もたぶん読まないだろうなあと思っている。

私が読んでいるのは名探偵が登場する本格謎解きもの、正統派ハードボイルド系、そして警察小説が中心。クライムノベル、サスペンス系がやや苦手である。そんな意味で作家による好みが出てしまい、ミステリ全般を幅広く読みこなすことができないでいる。申し訳ないなと思うところである。

1994年「このミス」ベスト20

- | | |
|----------------|-------|
| 1. ミステリーズ | 山口雅也 |
| 2. スtockホルムの密使 | 佐々木譲 |
| 3. 照柿 | 高村 薫 |
| 4. 笑う山崎 | 花村萬月 |
| 5. 猟犬探偵 | 稲見一良 |
| 6. 男は旗 | 稲見一良 |
| 7. プリズンホテル秋 | 浅田次郎 |
| 8. 姑獲鳥の夏 | 京極夏彦 |
| 9. 流星たちの宴 | 白川 道 |
| 10. 二の悲劇 | 法月綸太郎 |
| 11. プラスティック | 井上夢人 |
| 12. 沈黙の教室 | 折原 一 |
| 13. 聖 域 | 篠田節子 |
| 14. 東京異聞 | 小野不由美 |
| 15. バルーンタウンの殺人 | 松尾由美 |
| 16. 日本殺人事件 | 山口雅也 |
| 17. 弓形の月 | 泡坂妻夫 |
| 18. 蓬 萊 | 今野 敏 |
| 19. 凍樹の森 | 谷 甲州 |
| 20. 日曜の夜は出たくない | 倉知 淳 |

稲見一良「猟犬探偵」

新潮社から出た作品。私の手元にあるのは2006年の光文社文庫版。稲見一良の作品は『セント・メリーのリボン』にしても『男は旗』にしても名品揃い。作者の稲見一良は肝臓癌で余命宣告されていた時期に書かれたもので、本書は作者の死の直後に発表された。

本書の主人公である竜門卓と猟犬のジョーは『セント・メリーのリボン』の最終話に登場し、本書では四話が集められた短編集になっている。大阪府の西北端の山林の中に丸太小屋をプラスした建物を建てて「竜門猟犬探偵舎」としている。仕事は行方不明になった猟犬を探すこと。第一話の『トカチン、カラチン』ではトナカイと少年を探すことに…。トナカイの名はトカチン、少年の名は小雪。動物の映画を企画している金巻という人物と共にキタ動物ランドを訪ねた。映画の撮影の話をした翌朝、トカチンを小雪が連れ出していなくなってしまった。少年の父親は「かまわないでおい」と言うが、金巻は竜門に追いかけてくれることを依頼する。竜門とジョーと金巻は有馬温泉方面へと…。第二話が『ギターと猟犬』、第三話が『サイド・キック』、第四話が『悪役と鳩』。ミステリというよりは純粋ハードボイルド。社会のゴタゴタから離れて暮らし、主義主張を曲げずに自分の生き方を追求する。自然の中で、猟犬の相棒ととともに…。そんな物語だ。

京極夏彦「姑獲鳥の夏」

講談社ノベルスから出た作品。私の手元にあるのは1998年の講談社文庫版。630ページある巨編。『京極堂シリーズ』の第一巻になる。京極作品を読むときにはいつも覚悟が必要である。私はミステリー冊を大抵一日で読むことにしているのでそのつもりで取り掛かるのだが…。でも京極夏彦はとて無理。二日どころか三日かかってしまうことも…。緊張感と集中力が要求される特別の作家と言ってよい。というわけで『京極堂シリーズ』読書は『塗仏の宴』で挫折している。

巻頭に示されるのは「姑獲鳥」の図と古文書に登場する姑獲鳥の説明。京極堂は古本屋。そこに坐るのが店主の中禅寺秋彦。彼は憑き物を落としたり悪霊を祓ったりする祈禱師の役目も持っている。「憑き物落とし」の手法から組み立てられていく名探偵である。文士の関口巽が「私」で登場してきて、京極堂と世の中の出来事について多角的な分析が述べられていく。そして雑司ヶ谷で医院を開業している久遠寺家での不思議な出来事に話が進んでいく。娘は二十ヶ月も妊娠して身籠ったままであり、その夫は密室から失踪してしまい行方不明になったという。シリーズを通じてのキャストたちが顔を出し、長大な話に膨らんでいく。この作品を面白いと思うかどうかは人によって差が大きいと思う。結末の解決もまた人により受け止めはさまざまだろう。